本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　おはようございます。

この定例会は初日からいろいろ波乱万丈な定例会で、きのうまで何ともない市長もびっくりするような波乱な出来事で大変申しわけなく思っております。

また、この一般質問に自分も携わりまして、市長の答弁が波乱万丈のない答弁をよろしくお願いして、通告に従いまして２点質問させていただきます。

今対馬を取り巻く環境は、年を追うごとに厳しさが増しております。

第一次産業の水産業は燃油の高騰、魚価安で操業さえできない状態です。この８月から燃油に対する補助制度は確立をしましたが、イカ漁、魚の不漁でその制度さえ発揮できていない現状だと思われます。

その中で、マグロ養殖は対馬で唯一の利益の出ている養殖事業です。

しかし、利益が出ているからといって現在事業をしていない人が新しく参入しようにも、国の制度、規約がこれ以上はマグロ養殖は拡大させない、新規事業の増加は認めないとなっております。

この厳しい環境の中、鴨居瀬のヒジキ養殖は成功に結びつき、ことしは新しくヒジキ養殖を希望している組合の生産者が５人もふえたそうです。

このヒジキ養殖は、対馬の磯焼け問題にも大きく期待が持てます。なぜならば、ヒジキ養殖場からヒジキの種が発散するから近場の沿岸に種が付着し、自然繁殖をすることが期待をできます。

対馬の現在の漁業従事者の６８％が６０歳以上です。あと５年も経過をすれば、漁業組合は存続さえ危惧される組合ばかりです。

このヒジキ養殖は１年中ではなく、冬場の種つけから採捕までは約半年ぐらいの作業です。少し高齢になっても作業はできるし、臨時収入が得られます。磯焼け対策にも貢献でき、これからの組合員の収入にも大きく期待できるヒジキ養殖です。

そのヒジキ養殖事業に、補助金は出してもらえないかをお尋ねいたします。

２点目、美津島町女護島の防波堤のかさ上げの要望について、この地区は美津島の三浦湾独特の沖、海上から長方形に長く、両サイドには山に囲まれ、北風、北東の風の強いときは風の逃げるところがなく、万関橋方向に一斉に吹いてきて同時に波も高く、女護島湾内の船は避難をしなければ防波堤を越えた波で船が壊れてしまう恐れがあります。

この防波堤のかさ上げができないかお尋ねいたします。

以上、よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　おはようございます。大部議員の質問に答えさせていただきます。

鴨居瀬のほうで新たに養殖ヒジキに取り組もうとされている方が５名いらっしゃるという話を聞き、大変、また先駆的な取り組みということで心躍るようなお話だというふうに感じております。

また、磯焼け対策にもつながる可能性があるならば、対馬全島に広げていただきたいというふうにも、今お話を聞く限りにおいては思ったところであります。

また、この養殖のみならず、ヒジキの生産量の問題でございますが、現在島内の生産量というのが平成１６年に比べ平成２３年度が６４６トン減少、平成１６年度７８５トン、２３年度が１３９トンと、先ほど言いましたように６４６トンもの減少をしております。言うまでもなく、磯焼けというものが大きく影響をしております。

これら海藻類につきましては大変水産物品として価値があり、さらにアラメ、カジメ類などはサザエ、アワビなどの主要な餌となるなど、島内の漁業者にとって重要な水産資源であると認識しておるところでございます。

市といたしましては、現在個人事業用のヒジキの種苗費に対する補助というものは行っておりませんが、磯焼け対策や地磯のヒジキの増量を目的として、島内の漁業集落の中では市が４分の１を負担をしております離島漁業再生支援交付金を活用し、ヒジキの養殖を実施したり、計画されているところでございます。

次に、県の補助事業でございますが、本年度、平成２５年度からの新規事業といたしまして、貝類、藻類養殖定着促進事業というものが平成２７年度までの３カ年計画で実施されております。実施中でございます。

事業の概要としましては、先ほどおっしゃられましたヒジキ、マガキ、イワガキ等の餌をやらない養殖を新規に開始する３名以上の漁業者グループに対し、種苗購入費や資材費などを初年度の開始費用の２分の１を助成するという事業が始まっております。

現在、島内におきましては今年度、豊玉町漁協管内の２グループが補助申請中でございます。

この補助事業が御質問の趣旨に沿う内容になっているように思いますので、市としましては対馬振興局水産課や対馬水産業普及指導センター、また各漁協と連携しながら漁業者への周知、そして申請の支援、また県に対する予算増額要望等について努力をしてまいりたいと考えております。

ヒジキ養殖のお話がございましたけれども、私どもが知っている範囲のヒジキ養殖というのは、天然のヒジキの根をロープに密着させてヒジキを成長させ、収穫する方法で行われております。

種苗はほとんどが大分県内の漁協から購入されているということでありますが、例えば何らかの事情で種苗出荷元の天然のヒジキが生えないとかの不測の状況になれば、種苗が購入できず、

生産計画に支障を来すなどのリスクもあるんではないかと思慮します。

ただ一方で、ぜひその天然のヒジキを収穫するより、はるかにおっしゃられるように労力も少なくて済みますので高齢の漁業者もとりやすい、取り組みやすいという点はございます。

今後につきましては、今申し上げましたことも考慮しながらヒジキ種苗費に対する補助事業の実施について、離島漁業再生支援交付金の活用状況や県の補助事業の成果、漁業者の経営状況や事業に対する要望、市の財政状況等、あらゆる角度からの検証をしてまいりたいと考えておりますので御理解を賜りたいと思います。

次に、２点目の女護島の防波堤のかさ上げのお話でございますが、今おっしゃられたように女護島地区は三浦湾漁港でありまして県管理の漁港であります。

長崎県が主体となって池の浦地区、女護島地区、それから久須保地区と漁港整備が進められてきました。最近では池の浦地区の防波堤と浮漁礁が完成を見ております。

当漁港は美津島町漁業協同組合の本所がありまして、平成２３年度港勢調査では登録漁船１７４隻、利用漁船５１７隻、属地陸揚量４８７トンと多く、イカ、ブリの一本釣りを主体とした対馬中央部の漁業基地港であり、市の中においても重要な役割を果たしている漁港であると認識をしております。

当漁港の位置する三浦湾は細長く北東を向いており、北あるいは北東の風が吹くと湾内も荒れ、波も高く、特に当該防波堤は湾奥部にあり、波、風の集まるところであります。風浪時の係船は不安なものがあると地区のほうからも聞いております。

そのようなことから、市としましても防波堤改良の必要性というものを感じているところであり、平成２０年度、２２年度、振興局のほうへ防波堤の整備の要望書を提出をさせていただいております。

今後におきましても状況を再確認し、振興局と協議を行い、防波堤のかさ上げ、さらに防風ネット等の設置というものを要望をしていきたいというふうに考えておるところであります。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　まず、ヒジキのほうなんですが、市長答弁もありましたけれども、このヒジキに対しては今どこの地区でも成功してるわけではないんですよね、正直言って。

鴨居瀬の生産者のほうがやっぱり企業努力というんですか、生産者努力というんですか、一生懸命やられた中でやっぱり島内では一番成功に結びつき、結びついたということで新しくその参入者も５名ふえたということなんです。

この対馬島内見ても、市長、いろんな補助制度が出てますけれども、なかなかこういう言い方はあんまりでしょうけど、補助が目立つようななかなか難しいところもあると思うんです。

なぜならば、その新規参入というのはなかなか出てないんですよね。ヒジキだけだと思うんで

すよ、この新規参入が近ごろ出てるというのが、５名も鴨居瀬地区だけで出てるわけです。

８月の末ごろですか、上のほうからも、上の漁協の生産者のほうがやっぱり鴨居瀬地区の人が成功に結びついたということで、勉強というか視察に来られて、ぜひ自分たちもやりたいということで帰られたそうです。

今鴨居瀬のほうも、地区の人もいろいろ改善されて、去年が大体１人の生産者が１００メーターの１０連、１連が１００メーターだそうです。それが１０連だったのがことしは１５連にふやして、漁場拡張でしょうけどそういう形でやっていくそうです。

私もこのヒジキというのはよくわからないんですから勉強させてもらった中で、大体１連に、１連１００メーターでいい人は乾燥物で１００キロ、いい人っていうのは１００キロから、いい人はやっぱり１７０キロとるそうです。

キロが大体養殖ヒジキで１，０００円から１，１００円で売れているそうです。天然物は千五、六百円してますけれども、そういう中でやっぱり先ほど言いますように、これが魚の養殖とかと違って資本金も少なくて済む、それから餌代も要らないやないですか、１年中これをやるんならまた労費もかかりますけど、種つけが大体１１月、早ければ１１月らしいんですけど、１１月から１２月にかけて採捕はもう４、５月にとってますから約半年間ですよね。

半年間の中でその臨時収入と言うたらまた語弊が出るかもわかりませんけれども、ほかの作業もしながらこのヒジキの金がやっぱりいい人は１５０万、２００万というのが入るわけですから、経費も売り上げの漁場料を入れて１０％から１５％も要らないそうなんです。

やっぱり漁師さんの手元というのは結構残るやないですか、それでやっぱり生産意欲も増してきとると思うんです。

まず、もうそれもですけど、市長、この前の質問で私もこの組合員の内容というんですか、今の組合の実態、今ここ私が調べた中で２３年度の漁業業務報告によりますと１２漁協で４，５２８名おるんです。

その中で一番多いのが豊玉漁協です。７８０名、その中の６０歳以上が５３７名、パーセンテージにしてもう６９％です。２番目に多いのが美津島町漁協です。６８８名、その中の６０歳以上が４１４名、パーセンテージで６０％、３番目が厳原町漁協ですけど、ここが６３３のうちに６０歳以上が４０９名、これパーセンテージで６５％です。その次が上対馬漁協が５７５名中６０歳以上が３９４名、ここは６９％です。

実際に４，５２８名中、働き盛りというか５０歳以上の方が３，８６３名、４，５２８名中の３，８６３名、パーセンテージに直したら８５．３％になるんです。

これを逆にひっくり返してみたときに、私も漁業従事者ですからちょっと不安なもんでちょっと調べている中で、３０歳以下が４，５２８名おる中で７１名しかいないんです、この１２漁協

のうちに。

ということは、あと５年もしたら、今一本釣りイカ釣りとかいろんな延べ縄とかやられてますけれども、もう７割近い方がほとんどできなくなる状態、ということは今水産水揚が島内で１３０億、１４０億なってますけど、もうこれから先私が言わなくても、市長、答えわかるやないですか、どういう推移になるかというの、そういう中で私が先ほどから言うように、高齢化に向かってやはり高齢者の人が何らかの形で収入が得られるこういう取り組みをやっているというのに、これすごいなと思ってるんです。

これが対馬一円はやっぱりリアス式でいろんな入り江も抱えてますよ、漁場的には恵まれてると思います。やる気でやればやっぱりこういうところも出てくるし、生産意欲が増して、ここの新しく５人も出てきたというのは私本当心から拍手したいぐらいあるんです。

一組合員でありながら、減る一方、高齢者一方の中で、こういう話が出るだけでやっぱり本当ありがたいと思ってます。

そういう中で、やはり言いますようにいろんな話を聞いてる中でそこの資材代が、種代が去年大分産で、大分産が一番高いらしいんです。それで生産もできるらしいです。３メーターぐらい伸びるらしいんですよ、大分佐伯産は。

韓国物は大体２メーターぐらいでとまってるらしいんですよ、成長が。

そこで、その収穫量が違ってくるやないですか、ことしは大分産を結構オーダーかけとって、佐伯産を、その中でやっぱりある程度できそうな話が見えてるらしいんです。

足りない分は、どうしてもそれは韓国から種は仕入れないといけないんでしょうけど、そういう中でやっぱり冷え切った対馬の漁業従事者の中でやっぱりそこに何十万、口で言ったら四、五十万と言うたら悪いでしょうけれども、その金を捻出するのが厳しいというわけなんです。

そういう中でこの補助制度があるとお聞きしまして、これ県のほうということですけど、県が２分の１補助してるならば市のほうでもその中の生産者と２分の１をするとか、何らかの形で金額的にしても何千万の金はヒジキに対しては今のところ必要ないですもんね、今のところですよ、これから対馬一円がどうなるかわかりませんけど、一応私も調べた中で鴨居瀬が全体的に要る、必要とするヒジキの量というの、種量というのが４，０００キロから５，０００キロらしいんです。

そしたら、去年は佐伯産が、佐伯産というか、佐伯で買ってるやつがキロ６００円ぐらいの仕入れ単価やったらしいんですけど、ことしは若干上がるらしいです、やっぱりどうしても。

何かそれを５，０００キロにして７００円にしても、市長、金額的にはわずかな補助事業だと思うんです。

そういう先ほど言ったようにこの対馬の今の現況、組合員の高齢化、そういう人たちがやっぱり日銭を呼ぶ言うたら悪いですけれども、何とかそういう形がとれる、お金が入るということを

してもらいたいわけなんです。

これ、市のほうでまた変わった考えをすれば、高齢者が今イカ釣りの漁師さんとか漁業従事者は、この前も言い方悪かったですけれども、親を面倒見切れなくていろんな方法で福祉のほうに入ったりしてる人もおります。

そういうその福祉の手当を、もうはっきり言って保護手当をみんなもらいたくて申請したくない人がやっぱり仕方なくやってる人が多いわけですから、こういう補助を出すことによってその高齢者がその保護を受けなくても済む、保護資金を出さなくても、保護金を出さなくてもいうのが市になれば種代と打って返すことができんかなと、これは私の勝手な考えなんですけれども、そういうことはできないかを、市長、お願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今こういう形で無給時の養殖というもので、まず潮の豊かさといいますか、海流の豊かさでやれる養殖というものに、この時期着手していくことはどうかというふうなお話というふうに聞きました。

それを進めていくということは、大いにその考え方、僕はいいと思っております。

ただ、ただただ心配は大分の種苗というもの、これが実際天然物の根をとってきてからの、こちらにひもに巻きつけていくとかいう作業が出てくると思います。

そこの資源のやりとりの問題、佐伯のほうがもし枯渇をしていくような状況になったときに、磯が変わってしまうということになったときに、じゃあ、こちらがそれでそれに頼ってていいのかというふうなこと等もあろうかと思います。

そのうちの佐伯の量は私は調査してませんからわかりませんが、それらとのバランスのこともこちらとしても研究をしたいと思いますし、今大部議員さんがおっしゃられた２分の１の県の補助を、この時期高齢者が漁業という形に従事をする外堀といいますか、環境というのをつくり込んでいくことというのはそれも必要だと思いますので、今の先ほどの研究しながら、県の助成事業にどのように市としてかかわっていけばよいのか、そして先ほど種苗費が１０％から１５％というお話をされましたが、そこの当たりで精査をしながら、市としてのかかわれる部分はどこかという部分もちょっと研究をさせていただいて、１１月までには間に合わんと思いますけれども、２６年度当初の研究までの研究材料ということで御理解をいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　前向きな検討で本当にありがたく思ってるんで、市長、何でもそうなんですけど、この離島漁業再生支援交付金でいろんな事業をやりますよね、団体で、実際に私の地区も離島再生でヒジキやったんですけど、２年、これはこの中でまた言っていいか悪いかわかりませんけれども、やっぱり自分が、一個人がやるのと、離島再生やったらやっぱり部落

で団体でやるでしょう、管理面から違うんです。

張りつけたらもう、それで何かそんな感じのところがほとんど失敗で、今鴨居瀬の地区の人たちは自分、個人でやるから、やっぱり自分の収入にはね返るように一生懸命なんです。

それで、その種問題も私も大分産、大分産ってその佐伯産がいいということで、市長の心配されておるように、それは大分産も、それ佐伯産ばっかしみんなが頼んだらなくなるんじゃないのという心配したんです。

したら、今鴨居瀬地区の人は自分で種を、種をとるように研究してるらしいです。それがまだ全部ができてないからあれですけど、私はもう魚はある程度負けなくて表現できますけど、そんな海藻類全く知らない中で、部会長さんの説明を聞いたらヒジキって枝があるらしいです、こうずっと、根っこから切ったらもうだめになると、そのヒジキの二枝ぐらいを残して、残して上を切る採捕、そしてそしたらその下がまた新芽が出るらしいんです。

そういう形をとっていくような方法もやって幾らかことし、何分の１かわかりませんけど、その方法に成功したということをこの前お聞きしました。

だから、ただ漠然と補助をくれやなくて、彼らもやっぱり一生懸命、そういうのをやっぱり向こう側がいつだめだとか、どんどんよくなった、値上がりというのはどうしてもします、するやないですか、そういう懸念もあるからやっぱり自分たちは自分たちの努力をやっているわけです。

だから、そういうのが自分で対馬産の種を植えつけをしきるというのに、やっぱりよその特徴ある中の生産者が話を聞いて、上のほうからも７名来られたそうなんです。

それが１００％できとけば、こういう補助をもう必要なくて苗はできるとでしょうけれども、まだそこまではいってないけれどもある程度めどが立ってきてるらしいんで、だからそういう意味でこの何年かやっぱりやって補助をしていけば、あとはもう独立採算でできるんじゃないかなと僕は思ってるんです。これはもう簡単な見方かもわかりませんけれども。

マグロにしてもそうですよね、ハマチがだめ、タイがだめ、もう水産業どんと養殖業が４０億、５０億あったのがもう２０億ぐらい切りかけたときに、県の推進魚種ということでマグロに県が力を入れてもらって、マグロの種、餌代、設備代、うちの尾崎地区にぽんと入らせてもらった中で一、二年はやっぱり試行錯誤でやってましたけど、今もう完全なもう軌道ですもんね、うちの美津島漁協も本当で財産収入はあそこでというふうになったんです。

でも、先ほど言ったようにもう新しく参入できないもんですから、マグロは、こういうそしてまた資金がかかるやないですか、ああいう魚関係は、このヒジキに関してはそんなに、私どもロープ資材は定置事業で入れますけど、そんなにお金かかるもんやないし、一回入れたら１０年やそこらもてます、ロープは。

あとはチェンジするのはもう種代の、種の細いロープとかそういう形をやっていくわけですか

ら、先ほどから言いますように団体事業であればやっぱり人ごとみたいになりますけど、やっぱり自分でやっていけば自分の管理ですから、お金にはね返るわけですから、ここが大きく私は結果として出てきておると思うわけです。

だから、市長もことしはどうしても間に合わんというような、時期的にですね、ことですけれども、ぜひ前向き検討はわかるんですが実現できるように、恐らく鴨居瀬地区にしてもこのヒジキの関係のある人は期待して見てると思ってますので、その点を市長、もう一度強い答弁をお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今おっしゃられたことについて、大部議員さんのほうからその種苗生産をそういう人たちで幾らかやり始めているというお話がございました。

こちらが一番心配を、懸念しているのはそこの部分であります。

種苗生産の部分等から本当どのように組み立てればいいかということを、早速この議会が終わってからでも動き出しをしないといけないと思っています。

研究するにしても後手後手に回っちゃいけませんので、万関の水改と一緒になってこの問題について取り組んでいければというふうに思っておりますので、お待ちいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　市長、本当にありがとうございます。

生産者、これからやろうかという人が、そういう言葉は本当に期待を大きく持てると思います。ぜひとも実現できるように、この補助制度ができるように頑張ってください。お願いしておきます。

それでから、２点目の女護島地区の防波堤の件なんですけど、これは県の漁港管理になってるんですかね、県でしょう、たしか。

そういう中で美津島、またこれ対馬市に合併したときか、合併前か、合併当初かな、一回、現地に一回来てもらって、名前は伏せますけども、やっぱり部長も来てもらって防波堤の長さもはかってこれじゃいかんと、先ほど言うように防風ネットをするか、かさ上げするような方向性でいかないかんねということはその当時出てたんです、もうあったんです。

それがもうずうっとそのまま平行線で予算がない、いろいろな形でいまだかつてにこういう状態に入ってるもんですから、あそこは３３所帯、私も区長に聞いたら３３所帯あるらしいんですけど、市長の答弁もあったように北風、北東の風、これ台風かぜですけど、それはもう行かれたら、私も久須保の人から、逆に万関に入る左側の久須保の入り口、あそこの人から来てくれと言われて、水路やから万関にぽんと風抜けるんかなと思ってたんですけど逆なんです。

北東の風が万関に当たってそれがはね返って反対側の家があるやないですか、万関の久須保の

突端の家がずうっと組合の裏側、あそこに行ったとき北東の風は竜巻巻きますよ、しぶきで。

私もうちの活性化センターかな、何かから一回来てもらって見てもらったことがあるんです。

だから、あそこの地区、そこの久須保の組合の裏側の浜寄りの人の家なんか、もう壁はもう潮風でやられる、天井はやられる、やっぱり本当にびっくりしました。それほどまでに風が強いんです。

あそこの防波堤はもう低くて、もう低くて今この温暖化と言われますから、その水温の高さが異常に高くなってきとるやないですか、普通でももうこれぐらいしかないんですよ、もう大潮の満潮の二、三十センチぐらいしかない中で北風、北東の風が吹いたら、もう風、風波ともに打ってくるやないですか。

だから、あそこの人たちは、あの港がこう「く」の字になっとる港なんですけど、逃げなくちゃいけないんですよ。

沖防波堤があって、漁連さんの前にあの防波堤ができましたもんね、あれで大分また今幾らか変わってるんですけど、もうちょっと北風が吹いたらあそこの地区はもう船全部かわしてましたよ。

あの漁連さんの前も、船も私たちが氷なんか積むときにでも本当積まれないような波が出てましたけど、それが幾らか防げてますけど、まだ女護島の今私が要望してるこの地区の湾内はとてもおれない状態だし、風が吹けばあの高台までしぶきと今プラスチックのごみなんか防波堤の外側にたまっとるやつが同時に吹き上がって、あの高台の家のほうまで吹き上がってますよ、これ大げさでも何でもないから調べてもらったらわかります。

それほどまでに風が強いところですし、そこの地区にしたら本当に低過ぎる防波堤なんです。それを２メーターなりかさ上げして波砕き、はね返しをするとか、先ほど市長言われたようにその上に防風ネットをするとかすれば、あの女護島のすり鉢状態になった住民たちも助かると思うんですけど、その分、県の漁港管理とは私もわかってこういう質問させてもらってるんです。

一日もこの改善ができるように、市長、市のほうとしても何とか頑張ってお願いしたいんです。お願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今おっしゃられた女護島の地区の防波堤が、通告書を見たとき、ああ、まだ上がってなかったかあというのが第一の感想でした。大変申しわけなく思います。

あの状態をそのまま放置してたら、本当その背後に住んである方たちの意見も以前聞いたこともありまして、できれば県のほうに今の状況というのを再度伝え、早期に着手していただけるような、そして地区の方々のお話というのも聞いていただけるようにしたいと思います。どうも申しわけございません。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　今の市長の答弁で地区の人は大変勇気づけられたと思います。

このかさ上げが一日も早く、早期実現できることをお願いして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで１８番、大部初幸君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。再開を１０時５５分から行います。

午前10時38分休憩

午前10時59分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に２番、小島徳重君。

○議員（２番　小島　徳重君）　皆さん、こんにちは。市民つしまの小島徳重でございます。６月定例会に引き続き一般質問の機会を得ましたことに感謝申し上げます。

質問に入ります前に、お礼とお願いを申し上げたいと思います。

先ほど大部議員さんから、女護島地区の防波堤のかさ上げの要望を取り上げていただきました。ありがとうございました。大部議員におかれましては、以前からこの件については熱心に取り組んでいただき、私も地区の一住民として感謝申し上げます。

市長におかれましても、地区の長年の念願でありますのでぜひ早期に、今大部議員さんの御答弁いただいたように実現いただけますよう、格別の御配慮をお願いをいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　小島議員、ちょっと待ってください。

大部議員から早退の届け出があっております。報告するのを忘れてました。

○議員（２番　小島　徳重君）　大部議員さんには一応お礼は申し上げておったんですけど、ありがとうございます。

○議長（作元　義文君）　いや、私の報告がおくれましたので。

○議員（２番　小島　徳重君）　それでは、本題に入らせていただきます。

前回の一般質問の後、町なかであるいは電話で、市民の方から有線テレビの一般質問の市議会中継を見ましたよとか、市民のために頑張ってくださいよとか、議会がもっとチェック機能を発揮してほしいとか多くの激励をいただきました。

感謝申し上げるとともに、６月定例会の一般質問で投票率の低下傾向が続いていることに関して、市民の政治への関心が薄らいでいるのではないかという指摘をしましたが、市議会の動静に